

船舶インシデント調査報告書

平成24年1月26日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 石 川 敏 行
 委員 根 本 美 奈

インシデント種類	運航不能（機関及び帆走具損傷）
発生日時	平成22年10月30日（土） 06時00分ごろ
発生場所	東京都八丈町八丈島南方沖 八丈島南端から真方位171° 77海里付近 （概位 北緯31° 45.7′ 東経140° 03.6′）
インシデント調査の経過	平成22年10月30日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	ヨット ^{こうゆう} 好友、5.3トン 252-16747大阪、個人所有 9.75m (Lr) × 3.43m × 1.65m、FRP ディーゼル機関、17.65kW、平成2年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 55歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成15年9月8日 免許証交付日 平成20年7月2日 （平成25年9月7日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関及び帆走具が損傷
インシデントの経過	本船は、船長が1人で乗り組み、和歌山県のマリーナを出航し、八丈島南方沖を航行中、ジブセール等が破損して降下できなくなり、機関を使用して八丈島に向けて航行していたところ機関が故障し、さらに、平成22年10月30日06時00分ごろ、メインセールのトラベラー（メインセールの左右舷側に移動させる装置）が破損したことから、運航不能となった。 本船は、友人を通じて海上保安庁に救助を求め、31日、巡視船にえい航されて救助された。
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北東、風力 7 海象：波高 約5m 特記事項：台風警報（10月25日発生した台風14号が、日本列島南岸に沿って北上し、30日に伊豆諸島を通過していた。）
その他の事項	本船は、日本から中国に行き、その後、中国を出発して日本を經由し、世界一周航海の途中であった。 機関は、冷却清水タンクが破損していた。 本船は、船内に海図を一枚も備え置いていなかった。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	不明 あり あり 本インシデントは、本船が、八丈島南方沖を航行中、帆走具及び機関が損傷したことから、運航不能となったものと考えられるが、船長から情報が十分に得られなかったため、帆走具及び機関が損傷するに至った状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本インシデントは、本船が、八丈島南方沖を航行中、帆走具及び機関が損傷したため、発生したものと考えられる。	